

指 定 管 理 業 務 評 価 結 果 書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	倉敷市鷺羽山ビジターセンター
(2) 指定管理者	所在地 倉敷市下津井田之浦 1 番 2 名 称 特定非営利活動法人 鷺羽山の景観を考える会 代表者 理事長 楠本 新太郎
(3) 公の施設の所管部署	倉敷市文化産業局文化観光部観光課
(4) 評価対象期間	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

2 総合評価結果

(1) 市の評価	今年度は「自主事業」と「広報」の 2 点に重点を置いて評価を行った。「自主事業」については、令和 6 年度では年間 2 4 回の自主事業を実施。子ども向けの環境学習をはじめ、地域の保育園を招いてのイベントや、地域のボランティアを募り実施された清掃活動など、多岐に渡る自主事業が実施されていた。当施設が地域のコミュニティへ積極的に関与する姿勢が見られ、児島地域に根差した取り組みが実施されていることが窺える。 「広報」については、特に瀬戸内海国立公園指定 9 0 周年に関する取組について着目し評価を行った。自主事業の広報を行う際に、9 0 周年記念事業の冠をつけることで、参加者に対して国立公園についての周知が図られていた。自主事業以外にも、環境省や県、市が実施する 9 0 周年関連事業において、積極的に協力を行っており、国立公園の認知度向上や国立公園保護の機運醸成に寄与していたと考えられる。 前年比での利用者数は減少しているが、令和元年度の利用者数と比較すると 1 1 6 % となっており、令和 2 年度以降はコロナ禍によるアウトドア需要が高まり、利用者数が大きく増加していたため、令和 6 年度の利用者数が低い水準ではない	総合評価
		S

	と考えられる。利用者の満足度についてはアンケート結果からも、高い水準を維持できていることから今年度の評価をSとした。	
(2) 指定管理者の自己評価	鷺羽山に訪れる皆様に、爽やかで、楽しいおもてなしをするため、鷺羽山ビジターセンターの指定管理者として、快適に利用していただける安心・安全な施設管理に心掛けてまいりました。 令和6年度も、インバウンド政策の取り組みにより外国人観光客が、多く来られています。国内の方が少なく感じますが利用者数は、コロナ前より多く年間2.7万人の方が来館して頂いております。ビジターセンターからの景色、館内の展示物を楽しまれていました。親子で参加できるクラフト教室、生き物観察会、植物観察会、陶芸教室、バードウォッチングなど、年間を通して24回の事業と毎月一回の将棋を楽しむ会、俳句の会、年各12回を実施することにより、今後も、なお一層の努力と研鑽を積み、指定管理者として、利用者の要望やアイデアを受け止め、期待され、希望ある運営に心掛けてまいりたいと思います。	
(3) アンケート結果の概要	「全体の満足度」は、96%の満足度（満足・ほぼ満足）が得られており、非常に高い水準を維持している。 また、管理運営に関するその他の項目（「職員の対応」「施設の清潔感」「安全対策」）についても、いずれも90%以上の満足度が得られており、適切な施設維持管理と接客が行われていることが窺える。	

3 施設の利用状況

(1) 利用実績	鷺羽山ビジターセンター入館者		
	令和6年度 27,817人	令和5年度 31,463人	前年比 -3,646人 (前年度比88.4%)
(2) 事業の内容	・施設の維持管理に関する業務 ・施設の使用の許可に関する業務 ・ビジターセンターの設置目的を達成するための事業に関する業務 ・ビジターセンターの利用者の利便性を向上させるために必要な業務		

4 収支

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 8, 2 5 9 千円 市からの指定管理料（委託料） 8, 0 0 7 千円 自動販売機等物販収入 2 4 6 千円 前期繰越金 6 千円 その他 0 千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 8, 2 5 9 千円 主な支出 人件費 4 8 8 8 千円 福利厚生費 5 0 千円 通信運搬費 1 6 8 千円 光熱水費・燃料費 7 4 8 千円 材料費・消耗品 5 8 千円 印刷製本費 5 7 千円 修繕維持費 7 1 千円 借上料 1 3 2 千円 施設賠償保険料 1 8 千円 鷺羽山活性化事業 3 2 9 千円 事務諸費 2 1 千円 防災設備委託料 9 7 千円 機械警備委託料 3 5 9 千円 浄化槽維持)管理委託料 1 2 6 千円 清掃委託料 6 5 1 千円 高圧電力保安費 8 3 千円 高架水槽清掃費 5 8 千円 建築設備定期点検費 8 6 千円 次期繰越金 2 5 9 千円